

# 精神科で勤務する新人看護師が体験する違和感と病棟文化との向き合い方についての研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木村, 聡子, 西本, 美和 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1078">https://kobe-tokiwa.repo.nii.ac.jp/records/1078</a>

3-P-10

### 精神科で勤務する新人看護師が体験する違和感と 病棟文化との向き合い方についての研究

木村聡子<sup>1)</sup>西本美和<sup>2)</sup>

先行研究においては、精神科看護師が抱く葛藤や、倫理的悩みについての調査研究はいくつかみられる(2003、大西・2010 田中)しかしながら、新人看護師と病棟文化に焦点をあてた研究はない。そこで、本研究では、精神科にはじめて勤務した看護師の体験する違和感と病棟文化への気づき、向き合い方について検討することを目的としている。対象は精神科ではじめて勤務し協力の得られた看護師とし、面接調査と自記式質問紙を合わせて質的分析をおこなった。尚、本研究は神戸常盤大学倫理審査で承認を受け実施した。研究協力者は8名。中には他科経験を経て精神科に初めて勤務する看護師も含まれた。面接の結果、違和感として挙げられたのは、行動制限の施行基準と実際の実施に関するもの、代理行為や制限の必要性について、対象者に対しての否定的な表現などであった。またそれらに対して、師長や先輩に相談することはあるものの、説明が納得できなくても、病棟のやり方、自分の知識不足から黙るという対応をとっている。またそういう決まりだと疑問をもたないなどがあげられた。つまり、精神看護についての知識が不十分であるが故の、違和感に対する自信のなさや、病棟のルールにはなるべく従って行動しようとするのが伺えた。これらは新人にとっては当然のことともいえるが、違和感を抱く事象から考えると、検討すべき課題であると考えらる。

---

1) 保健科学部看護学科 2) 奈良学園大学保健医療学部看護学科